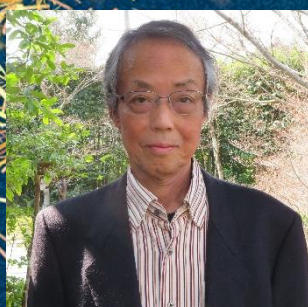


終戦 80 周年記念講演

文学者たちの 「大東亜戦争」

なぜかれらは熱狂したのか



講師 小関素明

(立命館大学文学部教授)

1962 年生まれ。立命館大学大学院文学研究科博士課程修了。専門分野は近代日本の政治史および政治思想史。政党政治や官僚制、主権論、戦時下の国民意識などを研究。主な著書に『日本近代主権と立憲政体構想』、『日本近代主権と「戦争革命」』（いずれも日本評論社）ほかがあり、近年の論文に『「戦争体験の思想化」の苦闘—『絶望』を原点にした精神の寄留地の構築』などがある。

8月9日(土) 13:30~15:30

真珠湾攻撃と開戦の報に日本国民は歓喜しました。一般の国民だけでなく、ほとんどの作家・文学者たちも同様でした。知情人として英米の文学・文化と深く接していたかれらも快哉を叫び、日記や原稿用紙を勇ましい言葉で埋めたのです。それはなぜだったのでしょうか。ドナルド・キーン『日本人の戦争：作家の日記を読む』を糸口として、精神史的な視点から論じていただきます。

会場 大型映像ホール
(ドナルド・キーン・センター柏崎1階)
定員 50名(要予約)
参加費 無料(要入館料)
問合せ先 0257-28-5755
主催 公益財団法人ブルボン吉田記念財団



ドナルド・キーン・センター柏崎
DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI